資治通鑑 第 111 巻

令和 3 年 12 月 25 日

◎晉紀三十三起屠維大淵獻，盡上章困敦，凡二年。

■東晋、●北魏、▲北燕、続国訳漢文大成．経子史部 第 7 巻 037p

安皇帝丙隆安三年（己亥，３９９年）

■春，正月（元嘉暦二月），辛酉（４日），大赦す。

▲［燕の留忠の叛乱鎮圧］戊辰（１１日），燕の昌黎尹の**留忠**は反を謀り，誅され，事は尚書令の東陽公の**根**、尚書の**段成**に連なり，皆な坐して死す。中衛將軍の**衛雙**を遣わして就きて**忠**の弟の幽州刺史の**志**を凡城に於いて誅さしむ。衛將軍の平原公の**元**を以て司徒、尚書令と為す。

●［魏主は高車討伐出発］庚午（１３日），魏主の**珪**は北を巡り，分け命じて大將軍の常山の**王遵**等三軍をして東道より長川（山西省雁門道天鎮県、現・大同市天鎮県）に出でしめ，鎮北將軍の高涼王の**樂真**等七軍をして西道より牛川（山西省雁門道左雲県、現・大同市左雲県）に出でしめ，**珪**は自ら大軍を將いて中道より駮髯水に出でて以て高車を襲う。

▲壬午（２５日），燕の右將軍の**張真**、城門校尉の**和翰**は謀反に坐して誅せらる。

▲癸未（２６日），燕は大赦し，(7-038p)改元して長樂とす。燕主の**盛**は十日毎に一は自ら獄を決し，拷掠を加えずして，多く其の情を得る。

【烏孤は呂光攻撃を優先す】

南涼［武威王の烏孤の支配体制］武威王の**烏孤**は徙りて樂都に治し，其の弟の西平公の**利鹿孤**を以て安夷（甘粛省西寧道西寧県、現・西寧市）に鎮ぜしめ，廣武公の**辱檀**を西平（樂都県、甘粛省西寧道碾伯県、現・海東市樂都区）に鎮ぜしめ，叔父の**素渥**を湟河（現・循化撒拉族自治県）に鎮ぜしめ，**若留**を澆河（甘粛省西寧道巴戎・循化・貴徳県、現・海東市化隆回族自治県）に鎮ぜしめ，從弟の**替引**を嶺南（洪池嶺の南）に鎮ぜしめ，**洛回**を廉川（現・海東市樂都区）に鎮ぜしめ，從叔の**吐若留**を浩亹（樂都の東）に鎮ぜしむ。夷、夏の俊傑は，才に隨いて任を授け，內は顯位に居り，外は郡縣を典（つかさ）どり，鹹な其の宜しきを得たり。

南涼［南涼はまず後涼の調略を謀る］**烏孤**は群臣に謂って曰く、

「隴右（漢は隴西、金城の二郡を置く）、河西は，本は數郡（漢の武威・張掖・酒泉・敦煌）之地なり，亂に遭いて分裂して十餘國に至り，呂氏、乞伏氏、段氏は最も強し。今之を取らんと欲す，三者何れが先か？」

楊統は曰く、

「乞伏氏は本は吾之部落（鮮卑）なり，終に當に服從すべし。段氏は書生なり，能く患いと為る無く，且つ好みを我に結ばん，之を攻めるは不義なり。**呂光**は衰耄し，嗣子（呂紹）は微弱にして，**纂**、**弘**は才有ると雖も而して內に相い猜忌す，若し浩亹、廉川をして虛に乘り送（たが）いに出で使めば，彼は必ず奔命に疲れて，二年を過ぎず，兵は勞し民は困し，則ち姑臧（呂光の都）は圖る可き也。姑臧を舉げれば，則ち二寇は攻めるを待たず而して服する矣。」

烏孤は曰く、

「善し。」

【北魏の国家体制確立へ】

●［魏は高車を破る］二月（元嘉暦三月），丁亥（１日）朔，魏軍は高車二十餘部を大いに破り，七萬餘口，馬三十餘萬匹，牛羊百四十餘萬頭を獲る。衛王の**儀**は別に三萬騎を將いて漠を絕（渡るの意味）すること千餘里，其の七部を破り，二萬餘口，馬五萬餘匹，牛羊二萬餘頭を獲る。高車の諸部は大いに震える。

■林邑王の**范達**は日南、九真を陷し，遂に交趾を寇し，太守の**杜瑗**は擊ちて之を破る。

●庚戌（２４日），魏の徵虜將軍の**庾岳**は**張超**（南皮による）を勃海に破り，之を斬る。

北涼［北涼、涼王成立］**段業**は涼王に即位し，改元して天璽とす。**沮渠蒙遜**を以て尚書左丞と為し，**梁中庸**を右丞と為す。

●魏主の**珪**は牛川之南に大獵し，高車の人を以て圍と為し，周は七百餘里。因りて其の禽獸を驅りて，南に平城に抵（いた）り，高車をして鹿苑を築か使め，廣さは數十里。●三月（元嘉暦三月閏），己未（３日），**珪**は平城に還る。

●［北魏の国家制度確立へ］甲子（８日），**珪**は尚書三十六曹及び外署を分けて，凡そ三百六十曹を置き，八部大夫（大人に作るべし、天興元年に皇城の四方四維に置き、一面に１人、以て八座に擬し八國という、各々属官あり）をして之を主せ令む。吏部尚書の**崔宏**は三十六曹を通署し，令、僕の事を統べるが如し。五經博士を置き，國子太學生員を增して合わせて三千人とする。

●［北魏の書籍大捜索］**珪**は博士の**李先**に問いて曰く、

「天下は何物か最も善く，以て人の神智を益す可きや？」

對えて曰く、

「書籍に若くは莫し。」

珪は曰く、

「書籍は凡そ幾何（いくばく）か有る，如何にして集める可きか？」

對えて曰く、

「書契より以來，世々滋々益す有り，今に至るを以て，勝げて計（かぞ）える可からず。(7-039p)苟しくも人主の好む所は，何ぞ集まらざるを憂えん！」

珪は之に從い，郡縣に命じて大いに書籍を索し，悉く平城に送らしむ。

【南燕は兗州の廣固に移転】

後秦 南燕［苻廣は南燕を頼り、自立を謀るも討伐］初め，秦王の**登**之弟の**廣**は衆三千を帥いて南燕王の**德**に依り，**德**は以て冠軍將軍と為し，之を乞活堡（晋の恵帝の時に諸族が保衆する所、河南省開封道開封県の東南、現・開封市祥符区）に處く。熒惑の東井を守るに會して，或は言う、

「秦は當に復た興るべし」，

廣は乃ち自稱して秦王と為り，南燕の北地王の**鐘**を擊ち，之を破る。是の時，滑台（前巻前年に徳は移る、河南省河北道滑県、現・安陽市滑県）は孤弱にして，土に十城無く，衆は一萬に過ぎず，**鐘**は既に敗れ，**德**に附く者は多く**德**を去りて而して**廣**に附く。**德**は乃ち魯陽王の**和**（慕容皝の孫、德の甥）を留めて滑台を守らしめ，自ら衆を帥いて**廣**を討ち，之を斬る。

▲［魯陽王和の長史李辨は滑台を以て魏に降る］燕主の**寶**之黎陽に至る也，魯陽王の**和**の長史の**李辨**は**和**に之を納れるを勸め，**和**は從わず。**辨**は懼れ，故に潛かに晉軍を引いて管城に至り，**德**が出でて戰うに因りて而して亂を作さんと欲す。既に而して**德**は出でず，**辨**は愈々自ら安ぜず。及ち**德**は**苻廣**を討ち，**辨**は復た**和**に反すを勸める。**和**は從わず，**辨**は乃ち**和**を殺し，滑台を以て魏に降る。魏の行台尚書の**和跋**は

鄴に在り，輕騎を帥いて鄴より之に赴く。既に至り，**辨**は之を悔い，閉門して拒み守る。**跋**は（魏の鄴台の）尚書郎の**鄧暉**をして之を說か使め，**辨**は乃ち開門して**跋**を內れ，**跋**は悉く**德**の宮人府庫を收める。**德**は兵を遣わして**跋**を擊ち，**跋**は逆え擊ち，之を破り，又た**德**の將の桂陽王の**鎭**を破り，俘獲は千餘人。陳、潁（陳郡潁川）之民は多く魏に附く。

南燕［慕容德は議論して、まず兗州を取る］南燕の右衛將軍の**慕容雲**（北燕主の高雲も慕容雲だが、同じか?）は**李辨**を斬り，將士家屬二萬餘口を帥いて滑台を出て**德**に赴く。**德**は滑台を攻めんと欲し，**韓范**は曰く、

「尙（屬は嚮）也魏の客爲り，吾は主人爲り。今也吾は客爲り，魏は主人爲り。人心は危懼し，復た戰う可からず，如らずば先ず一方に據り，自ら基本を立て，乃ち進取を圖らん。」

張華は曰く、

「彭城は，楚之舊都（項羽の都）なり，攻めて而して之に據る可し。」

北地王の**鐘**等は皆な**德**に滑台を攻めるを勸める。尚書の**潘聰**は曰く、

「滑台は四通八達之地（交通の要衝）なり，北に魏有り，南に晉有り，西に秦有り，之に居るに未だ嘗て一日も安からざる也。彭城は土曠く人は稀に，平夷にして險無く，且つ晉之舊鎭なり，未だ易く取る可からず。又江、淮に密邇し，夏秋は水多し。舟に乘り而して戰う者は，吳之長ずる所，我之短なる所也。青州の沃野は二千里，精兵は十餘萬，左に負海之饒有り，右に山河之固め有り。廣固の城は曹嶷の築く所，地形は阻峻にして，**帝王**之都と爲すに足る。三齊の英傑は，明主を得て以て功を世に立てるを思い久しき矣。**辟閭渾**は昔燕の臣と爲り（孝武帝太元 19 年にあり），今は宜しく辨士を遣わして馳せて前に說き，大兵を後に繼踵し，若し其の服さざれば，之を取ること芥を拾うが如き耳。既に其の地を得て，然る後に關を閉じ銳を養い，隙を伺いて而して動けば，此れ乃ち**陛下**之關中、河內也。」**(7-040p)**

德は猶豫して未だ決せず。沙門の**竺朗**は素より占候を善くし，**德**は牙門の**蘇撫**をして之に問わ使め，**朗**は曰く、

「敬して三策を覽ずるに，**潘**尚書之議は，邦を興こす之言也。且つ今歲之初め，彗星は奎、婁（28 宿の 2）に起こし，虛、危（28 宿の 2）を掃く。彗なる者，舊を除き新を布く之象なり，奎、婁は魯と爲し，虛、危は齊と爲す。宜しく先ず兗州を取り，琅邪を巡撫し，秋に至りて乃ち北に齊地を徇うべし，此れ天道也。」

撫は又た密かに問うに年世（年数と世代）を以てし，**朗**は《周易》を以て之を筮して曰く、

「燕は庚戌に衰え，年は則ち一紀，世は則ち子に及ぶ。」

撫は還りて**德**に報じ，**德**は乃ち師を引いて而して南し，兗州の北鄙の諸郡縣は皆な之に降る。**德**は守宰を置き以て之を撫で，軍士に禁じて虜掠するを得無からしむ。百姓は大いに悅び，（獻上の）牛酒は路に屬く。

●丙子（２０日），魏主の**珪**は建義將軍の**庾真**、越騎校尉の**奚斤**を遣わして庫狄、宥連、侯莫陳の三部を擊たしめ，皆な之を破り，奔るを追いて大峨谷に至り，戍を置いて而して還る。

■己卯（２４日），**帝**を生む所の母の**陳夫人**を追尊して**德皇太后**と爲す。

西秦夏，四月，鮮卑の**疊掘河內**は戶五千を帥いて西秦に降る。西秦王の**乾歸**は河內を以て疊掘都統と爲す，宗女を以て之の妻とする。

▲甲午（９日），燕は大赦す。

■［會稽王の道子に代わりて元顯は揚州刺史］會稽王の**道子**は疾有り，且つ醉わざる日無し。世子の**元顯**は朝望（朝廷の名望）の之を去るを知り，乃ち朝廷に諷して**道子**の司徒、揚州刺史を解く。乙未（１０日），**元顯**を以て揚州刺史と爲す。**道子**は醒めて而して後に之を知り，大いに怒れども，之を如何とするも無

し。**元顯**は廬江太守の會稽の**張法順**を以て謀主と為し，多く親黨を引樹し，朝貴（朝廷の貴人）は皆な之を畏れる事とす。

▲燕の散騎常侍の**餘超**、左將軍の**高和**等は謀反に坐して誅せらるる。

後涼 北涼 南涼［後涼侵攻を北涼は南涼の支援で乗り切る］涼の太子の**紹**、太原公の**纂**は兵を將いて北涼を伐ち，北涼王の**業**は武威王の**烏孤**に救いを求め，**烏孤**は驃騎大將軍の**利鹿孤**及び**楊軌**を遣わして之を救う。**業**は將に戰わんとし，**沮渠蒙遜**は諫めて曰く、

「**楊軌**は鮮卑（禿髪は鮮卑なり）之強きを恃みて，窺窬（隙を伺う）之志有り，**紹**、**纂**が深く入り，兵を死地に置くは，敵す可からざるなり也。今戰わざれば則ち泰山之安有り，戰えば則ち累卵之危きに有り。」

業は之に從う，兵を案じて戰わず。**紹**、**纂**は兵を引いて歸る。

南涼六月，**烏孤**は**利鹿孤**を以て涼州牧と為し，西平に鎮せしめ，車騎大將軍の**辱檀**を召して入りて府の國事を錄せしむ。

■會稽の世子の**元顯**は自ら少年なるを以て，頓に重任に居るを欲せず、戊子（４日），琅邪王の**德文**を以て司徒と為す。

●［**盧溥は南燕に附く**］魏の前河間太守の范陽の**盧溥**は其の部曲數千家を帥いて，食に漁陽に就き，遂に數郡に據りて有す。**秋，七月**，己未（５日），燕主の**盛**は遣使して**溥**を拜して幽州刺史とす。**(7-041p)**

▲［**後燕は罪を金帛で贖う**］辛酉（７日），燕主の**盛**は下詔して曰く、

「法例律に，公侯に罪有れば，金帛を以て贖うを得るとす，此くは以て惡を懲らすに足らず而して王府を利し，甚だ謂われ無き也。今より皆な功を立てて以て自ら贖わ令め。復た金帛を輸す勿かれ。

西秦西秦の丞相の南川宣公の**出連乞都**は卒す。

後秦 ■●［**後秦は洛陽を攻め、晉は北魏に救援を求める**］秦の齊公の**崇**、鎮東將軍の**楊佛嵩**は洛陽を寇し，河南太守の隴西の**辛恭靖**は城に嬰りて固く守る。雍州刺史の**楊佺期**は遣使して魏の常山王の**遵**に救いを求め，魏主の**珪**は散騎侍郎の西河の**張濟**を以て**遵**の從事中郎と為し以て之に報いる。**佺期**は**濟**に問いて曰く、

「魏之中山を伐つや（108 卷孝武帝太元 21 年にあり），戎士は幾何ぞ？」

濟は曰く、

「四十餘萬なり」。

佺期は曰く、

「魏之強きを以て，小羌は滅ぼすに足らざる也。且つ晉は之（續は無し）れ魏とは，本は一家と為り（拓跋猗盧が劉琨を救った時），今は既に好みを結び，義は隱す所無し。此の間兵は弱く糧は寡く，洛陽之救いは，魏を恃む而已む。若し其の保全せば，必ず厚く報いる有り。若し其の守らざれば，與に其の羌をして之を得使めんよりは，魏をして之を得使めんに若かず。」

濟は還りて報ず。**八月**，**珪**は太尉の**穆崇**を遣わして六萬騎を將いて往きて之を救わしむ。

▲［**燕の遼西太守の李朗一族の誅殺**］燕の遼西（令支に治す）太守の**李朗**は郡に在ること十年，威は境內に行なわれ，燕主の**盛**の之を疑うを恐れ，累りに征（續は徵）せらるるも赴かず。其の家は龍城に在るを以て，未だ敢えて顯かには叛せず，陰かに魏兵を召し，郡を以て魏に降るを許す。遣使して馳せて龍城に詣り，廣く寇勢を張らしむ。**盛**は曰く、

「此くは必ず詐り也。」

使者を召して詰問し，果たして事實は無し。**盛**は盡く**朗**の族を滅し，丁酉（１３日），輔國將軍の**李旱**を

遣わして之を討たしむ。

●［魏の奮武將軍の張衮の推薦の失敗］初め，魏の奮武將軍の**張衮**は才謀を以て魏主の**珪**の信ずる所重く，委ねて腹心を以てす。**珪**は中州の士人を**衮**に問う，**衮**は**盧溥**及び**崔逞**を薦して，**珪**は皆な之を用いる。**珪**は中山を圍み，久しく未だ下らず（109 巻隆安元年にあり），軍食は乏しく，計を群臣に問う。**逞**は御史中丞為り，對えて曰く、

「桑椹（桑の実）は以て糧を佐く可し。飛鴞（梟）は椹を食らいて而して音を改める，詩人の稱する所也。」

珪は其の言を用い，民の椹を以て租に當てるを聽すと雖も，然るに**逞**を以て侮慢と為し，心は之を銜む。

秦人は襄陽を寇し，雍州刺史の**郗恢**は書を以て魏の常山王の**遵**に救いを求めて曰く：

「覽兄は中原に虎歩せん。」

珪は**恢**が君臣之禮無しを以て，**衮**及び**逞**に命じて復書を為さしめ，

「必ず其の主を貶せよ。」

と。**堯**、**逞**は**帝**を謂って貴主と為し，**珪**は怒りて曰く、

「汝に命じて之を貶せしむ，而して之を『貴主』と謂う，『賢兄』に何如也！」

逞之魏に降る也，天下は方に亂るるを以て，復た遺種無からんを恐れ，其の妻の**張氏**をして四子と與に冀州に留め使め，**(7-042p)** **逞**は獨り幼子の**賾**と與に平城に詣り，留める所の妻子は遂に南燕に奔る。**珪**は並せて是を以て**逞**を責め，**逞**に死を賜る。**盧溥**は燕の爵命を受け，魏の郡縣を侵掠し，魏の幽州刺史の**封沓干**を殺す。**珪**は、

「**衮**の舉げる所は皆な其の人に非ず」，

と謂い、**衮**を黜けて尚書令史と為す。**衮**は乃ち門を闔じて人事に通じず，惟だ手ずから經籍を校じ，歲餘に而して終わる。

▲［封懿の疏慢］燕主の**寶**之敗れる也，中書令、民部尚書の**封懿**は魏に降る。**珪**は**懿**を以て給事黃門侍郎、都坐大官（三都大官あり、他に外都大官・内都大官）と為す。**珪**は**懿**に燕氏の舊事を以て問い，**懿**の應對は疏慢にして，亦た坐して家に廢せらる。

南涼［禿髪烏孤は落馬して急死］武威王の**禿髪烏孤**は醉い，馬を走らせて脅（肋骨）を傷つけて而して卒し，遺令して長君を立てしむ。國人は其の弟の**利鹿孤**を立て，**烏孤**に謚して**武王**と曰い，廟號は**列祖**とす。**利鹿孤**は大赦し，徙りて西平に治す。（「晋書禿髪烏孤載記」によれば、399 年８月烏孤は落馬して当初は笑って「呂光親子を大喜びさせたいものよ」と言っていたが、容体急変して死んだと。）

南燕［幽州刺史の辟閭渾は去就に迷い南燕に伐たれる、廣固に都す］南燕王の**德**は遣使して幽州刺史の**辟閭渾**を說きて，之を下さんと欲し，**渾**は從わず。**德**は北地王の**鐘**を遣わして歩騎二萬を帥いて之を擊たしめ，**德**は進みて琅邪（山東省琅邪郡、治所は瑯琊県、現・青島市黃島区）に據り，徐、兗之民の歸附する者は十餘萬なり。**德**は琅邪より兵を引いて而して北し，南海王の**法**を以て兗州刺史と為し，梁父に鎮せしむ。莒城に進攻し，守將の**任安**は城を委てて走る。**德**は**潘聰**を以て徐州刺史と為し，莒城（山東省済寧道莒県、現・日照市莒県）に鎮せしむ。**蘭汗**之亂に，燕の吏部尚書の**封孚**は南に**辟閭渾**に奔り，**渾**は表して勃海太守と為す。**德**の至るに及び，**孚**は出でて降り，**德**は大いに喜びて曰く、

「孤は青州を得るも喜びと為さず，卿を得て喜ぶ耳！」

遂に委ねるに機密を以てす。北地王の**鐘**は青州諸郡に檄を傳え，諭ずに禍福を以てし，**辟閭渾**は八千餘家を徙して入りて廣固を守り，司馬の**崔誕**を遣わして薄荀固（元々人名、山東省謬東道臨淄県、現・淄博市臨淄区）に戍せしめ，平原太守の**張豁**は柳泉に戍せしむ。**誕**、**豁**は檄を承けて皆な**德**に降る。**渾**は懼れ，妻子を攜えて

魏に奔り，**德**は射聲校尉の**劉綱**を遣わして之を追い，莒城に及び，之を斬る。**渾**の子の**道秀**は自ら**德**に詣りて，父と倶に死せんと請う。**德**は曰く、
「父は不忠と雖も，而して子は能く孝なり。」
特に之を赦す。**渾**の參軍の**張瑛**は**渾**の為に檄を作り，辭は多く不遜にして，**德**は執り而して之を讓む。**瑛**は神色自若として，徐に曰く、
「**渾**之臣有るは，猶ほ**韓信**之**蒯通**有るがごとし。**通**は**漢祖**に遇いて而して生き，臣は**陛下**に遭いて而して死す。之れ古人に比するに，竊に不幸と為す耳！」
德は之を殺す。遂に都を廣固に定める。

▲［燕の李朗は魏に通じるも誅殺される］燕の**李旱**は行きて建安に至り，燕主の**盛**は急に之を召し，君臣は其の故を測る莫し。九月，辛未（１８日），復た之を遣る。**李朗**は其の家の誅せ被るを聞き，二千餘戸を擁して以て自ら固める。**旱**の還るを聞くに及び，内變有ると謂い，復た備えを設けず，其の子の**養**を留めて令支（燕の遼西郡の治所、現・河北省唐山市遷安市）を守らしめ，自ら魏師を北平に迎える。壬子（壬午？２９日），**旱**は令支を襲い，之に克ち，廣威將軍の**孟廣平**を遣わして追いて無終（直隷省津海道玉田県、現・河北省唐山市玉田県）に於いて**朗**に及び，之を斬る。(7-043p)

後秦［秦主の興は災異につき降格、政治充実］秦主の**興**は災異の屢々見るを以て，號を降して王と稱し，下詔して群公、卿士、將牧、守宰は各々降一等を降さ令む。大赦し，改元して弘始とす。孤貧を存問し，賢俊を舉拔し，法令を簡省にし，獄訟を清察にし，守令之政跡有る者は之を賞し，貪殘する者は之を誅し，遠近は肅然とす。

▲［燕の李旱は軍を逃亡するも許される］冬，十月，甲午（１２日），燕の中衛將軍の**衛雙**は罪有りて，死を賜わる。**李旱**は還り，**雙**の死を聞き，懼れ，軍を棄てて而して亡げ，板陘（直隷省津海道遷安県、現・河北省唐山市遷安市）に至り，復た還りて罪に歸す。燕主の**盛**は其の爵位を復し，侍中の**孫勛**に謂って曰く、
「**旱**は將と為りて而して軍を棄て，罪は赦さざるに在り。然るに昔**先帝**は蒙塵するに，骨肉は心離れ，公卿は節を失うに，惟だ**旱**のみは宦者を以て忠勤して懈かず（前巻二年にあり），始終一の如し，故に吾は其の功を念うに而して之を赦す耳。」

後秦■［秦は洛陽を取る］**辛恭靖**は固く守りて百餘日，魏の救いは未た至らず，秦兵は洛陽を拔き，**恭靖**を獲る。**恭靖**は秦王の**興**を見るに，拜せず，曰く、
「吾は羌賊の臣と為らず！」
興は之を囚え，**恭靖**は逃げ歸る。淮より、漢以北，諸城は多く降を請い，任（人質）を秦に送る。
●魏主の**珪**は**穆崇**を以て豫州刺史と為し，野王（秦が洛陽を取ったのに対抗して、河北防衛、河南省河北道泌陽県、現・焦作市沁陽市）に鎮せしむ。

【會稽の孫恩の反乱】

■［會稽の元顯の苛刻］會稽の世子の**元顯**は，性は苛刻にして，生殺は意に任す。東土の諸郡の免奴（罪有れば官奴になるが、公卿以下官吏・宗室・先賢の子孫などを免じて客戸とす）の客と為る者を發し，號して樂屬と曰い，移して京師に置き，以て兵役に充て，東土は囂然として之に苦しむ。

■［會稽の孫恩の反乱勃発］**孫恩**は民心の騒動に因り，海島より其の黨を帥いて上虞（浙江省会稽道上虞県、現・紹興市上虞区）令を殺し，遂に會稽を攻める。會稽の内史の**王凝之**は，**羲之**之子也，世々天師道（後漢末に

張道陵が老子より受けたと称して宣伝する宗教、後に道教となる）を奉じ，出兵せず，亦た備えを設けず，日々道室（天師道の道術を修する部屋）に於いて稽顙跪咒す。官屬は出兵して**恩**を討つを請い，**凝之**は曰く、

「我は已に大道を請い，鬼兵を借りて諸の津要を守り，各々數萬にして，賊は憂うに足らざる也。」

恩が漸く近づくに及び，乃ち出兵を聽(ゆる)すも，**恩**は已に郡下に至る。甲寅（３２日？），**恩**は會稽を陷し，**凝之**は出で走り，**恩**は執りて而して之，並びに其の諸子を殺す。**凝之**の妻の**謝道韞**は，**奕**之女也，寇の至るを聞き，擧措は自若にして，婢に命じて肩輿せしめ，刀を抽りて門を出，手ずから數人を殺し，乃ち執ら被る。吳國の內史の**桓謙**、臨海太守の新秦（晋書には蔡とある）王の**崇**（如南央祐の曾孫、新蔡国を継ぐ）、義興太守の**魏隱**は皆な郡を棄てて走る。是に於いて會稽の**謝金鹹**，吳郡の**陸瑰**、吳興の**丘尪**、義興の**許充之**、臨海の**周胄**、永嘉の**張永**等及び東陽、新安の凡そ八郡の人は，一時に兵を起こし，長吏を殺して以て**恩**に應じ，旬日之中に，衆は數十萬。吳興太守の**謝邈**、永嘉太守の**司馬逸**、嘉興公の**顧胤**、南康公の**謝明慧**、黃門郎の**謝沖**、**張琨**、中書郎の**孔道**等は皆な**恩**の黨の殺す所と為る。**邈**、**沖**，皆な**安**之弟の子也。時に三吳は承平の日久しく，(7-044p)民は戰いを習わず，故に郡縣の兵は皆な風を望み奔潰す。**恩**は會稽に據り，自ら征東將軍と稱し，人士に逼りて官屬と為し，其の黨を號して「長生人」と曰う。民に之と同ぜざる者有れば，戮は嬰孩（嬰児）に及び，死者は什に七、八。諸縣令を醢(ししびしお)にし以て其の妻子に食わし，食うを肯(がん)ぜざる者は，輒ち之を支解（八つ裂き）す。過ぐる所の財物を掠し，邑屋を燒き，倉廩を焚き，木を刊(き)り，井を堙(うず)め，相い帥いて會稽に聚まる。婦人の嬰兒有りて去る能わざる者は，水中に投げて，曰く、

「汝が先に仙堂に登るを賀す，我は當に尋いで後に汝に就くべし。」

恩は會稽王の**道子**及び世子の**元顯**之罪を表して，之を誅するを請う。

■［帝の直接支配範囲は惟だ三吳のみ］**帝**の即位より以來，內外は乖異し，石頭以南は皆な荊、江の據る所と為り，以西は皆な豫州の專らとする所，京口及び江北は皆な**劉牢之**（京口に拠る）及び廣陵の相同（続は高）雅之制する所なりて，朝廷の行する所は，惟だ三吳而して已(のみ)。**孫恩**の作亂に及び，八郡は皆な**恩**の有と為り，畿內の諸縣は，盜賊の處處に蜂起し，**恩**の黨は亦た潛かに伏して建康に在る者有り，人情は危懼す。常に竊かに發するを慮り，是に於いて內外は戒嚴す。**道子**に黃鉞を加え，**元顯**に中軍將軍を領せしめ，徐州刺史の**謝琰**に命じて吳興、義興軍事を兼ねて督さしめ以て**恩**を討つ；**劉牢之**も亦た兵を發して**恩**を討つ，拜表して輒ち行く。

西秦西秦は金城太守の**辛靜**を以て右丞相と為す。

▲十二月，甲午（１２日），燕の燕郡太守の**高湖**は戶三千を帥いて魏に降る。**湖**は，**泰**之子也。

▲丙午（２４日），燕主の**盛**は弟の**淵**を封じて章武公と為し，**虔**を博陵公と為し，子の**定**を遼西公と為す。

▲丁未（２５日），燕の太后の**段氏**は卒す，謚して**惠德皇后**と曰う。

■**謝琰**は擊ちて**許允之**を斬り，**魏隱**を迎えて郡に還り，丘尪に進擊して，之を破り，**劉牢之**と轉斗して而して前み，向う所輒ち克つ。**琰**は烏程（浙江省銭塘道吳興県、現・湖州市吳興区）に留屯し，司馬の**高素**を遣わして**牢之**を助け，進みて浙江に臨む。詔して**牢之**を以て都督吳都諸軍事とす。

【孫恩討伐に劉裕登場】

■［劉裕の生い立ちと大活躍］初め，彭城の**劉裕**，生まれて而して母は死し，父の**翹**は京口に僑居し，家貧しく，將に之を棄てんとす。同郡の**劉懷敬**之母は，**裕之**の從母也，**懷敬**を生みて未だ期せず，走り往きて之を救い，**懷敬**の乳を斷ちて而して之に乳す。長ずるに及び，勇健にして大志有り。僅かに文字を識るも，履を賣るを以て業と為し，樗蒲を好み，鄉閭の賤しむ所と為る。**劉牢之**が**孫恩**を擊つや，**裕**を引いて

軍事に參ぜしめ，數十人を將いて賊を覘(うかが)は使む。賊數千人に遇い，即ち之を迎撃し，從者は皆な死し，**裕**は岸下に墜ちる。賊は岸に臨みて下らんと欲し，**裕**は長刀を奮いて仰ぎて數人を斫り殺し，乃ち岸を登るを得，仍ち大呼して之を逐い，賊は皆な走る，**裕**の殺傷する所甚だ衆し。**劉敬宣**は**裕**の久しく返らざるを怪しみ，兵を引いて之を尋ね，**裕**の獨り數千人を驅るを見，鹹な共に歎息す。因りて賊に進撃し，大いに之を破り，千餘人を斬獲す。

■［孫恩崩壊し海島に逃亡］初め，**恩**は八郡の響き應じるを聞き，其の屬に謂って曰く、

「天下も復た事無し矣，(8-045p)當に諸君と與に朝服（位を望む）して建康に至らん。」

既に而して**牢之**の江に臨むを聞き，曰く、

「我は浙江以東を割くとも，**句踐**（越王の如く會稽を保有）と作(な)るを失わず！」

戊申（２６日），**牢之**は兵を引いて江を濟り，**恩**は之を聞き，曰く、

「孤は走るを羞じず（江表傳、周瑜が魏軍に敗れた時の言葉）。」

遂に男女二十餘萬口を驅して東に走り，多く寶物、子女を道に棄てる。官軍は競いて之を取り，**恩**は是に由りて脫かるるを得，復た逃げて海島に入る。**高素**は**恩**の黨を山陰（浙江省会稽道紹興県、現・紹興市柯橋区）に破り，**恩**の署する所の吳郡太守の**陸瑰**、吳興太守の**丘尪**、餘姚令の吳興の**沈穆夫**を斬る。

■［東土の城から人が消える］東土は亂に遭い，官軍之至るを企望し，既に而して**牢之**等は軍士を縱ちて暴掠し，士民は失望す。郡縣の城中も復た人跡無く，月餘にして乃ち稍く還る者有り。朝廷は**恩**の復た至るを憂え，**謝琰**を以て會稽太守、都督五郡軍事と為し，徐州の文武を帥いて海浦（海岸べり）に戍せしむ。

■［元顯の驕侈甚だし、富は帝室に逾える］**元顯**を以て尚書事を錄せしむ。時に人は**道子**を謂って東錄と為し，**元顯**を西錄と為す。西府は車騎を填湊（出入り多く混雜）し，東第は門に羅を張る可し（出入りする人少ないをいう）矣。**元顯**は良き師友無く，親信する所の者は率(おおむ)ね皆な佞諛之人にして，或は以て一時の英傑と為し，或は以て風流の名士と為す。是に由りて**元顯**は日々益々驕侈し，禮官を諷して議を立てるに，以て、

「己は德隆（續は高）く望みは重く，既に百揆（百官）を錄し，百揆は皆な應に盡く敬すべし。」

と。是に於いて公卿以下，**元顯**を見るに皆な拜す。時に軍旅は數々起き，國用は虛竭し，司徒より以下，日々に廩七升，而るに**元顯**は聚斂(じゅうれん)して已まず，富は帝室を逾える。

【桓玄の巧妙な作戦】

■［殷仲堪・楊佺期と桓玄の対立］**殷仲堪**は**桓玄**の跋扈するを恐れ，乃ち**楊佺期**と昏を結びて援と為す。**佺期**は屢々**玄**を攻めんと欲し，**仲堪**は毎に之を抑止す。**玄**は終に**殷**、**楊**の滅ぼす所と為るを恐れ，乃ち執政（元顯）に告げ，其の統べる所を廣げんを求める。執政も亦た交々構えて，之を乖離せ使むるを欲し，乃ち**玄**に都督荊州四郡（長沙・衡陽・湘東・零陵）軍事を加え，又た**玄**の兄の**偉**を以て**佺期**の兄の**廣**に代えて南蠻校尉と為す。**佺期**は忿懼す。**楊廣**は**桓偉**を拒まんと欲し，**仲堪**は聽(ゆる)さず，**廣**を出して宜都、建平の二郡太守と為す。**楊孜敬**は先に江夏の相爲(た)り，**玄**は兵を以て襲い而して之を劫け，以て咨議參軍と為す。

■［仲堪は佺期を疑い、共に立てず］**佺期**は兵を勒して牙を建て，聲は雲う、

「洛を援ける」，

とし、**仲堪**と共に**玄**を襲わんと欲す。**仲堪**は外に**佺期**と結ぶと雖も而して内に其の心を疑い，苦して之を止む。猶ほ禁ずる能わざるを慮り，從弟の**遹**を遣わして北境（雍州は襄陽に治し、江陵の北にあり）に屯せしめ，以て**佺期**を遏(とど)む。**佺期**は既に獨り擧ぐ能わず，又た**仲堪**の本意を測らず，乃ち兵を解く。

■**仲堪**は多く疑い少しく決す，咨議參軍の**羅企生**は其の弟の**遵生**に謂って曰く、

「**殷侯**は仁にして而して斷無く，必ず難に及ばん。吾は知遇を蒙(こうむ)り，義は去る可からず，必ず將に之に死せんとす。」

【荊州大水，桓玄は乗じて挙兵】

■<u>［荊州は大水，平地は三丈、桓玄挙兵］</u>是の歳，荊州は大水，平地は三丈，(7-046p) **仲堪**は倉廩を竭して以て饑民を賑わす。**桓玄**は其の虚に乗りて而して之を伐たんと欲し，乃ち兵を發して西上し，亦た、

「洛を救わん」

と聲言し，**仲堪**に書を與えて曰く、

「**佺期**は國の恩を受け（晋は洛陽を復し、雍州に所属さす）而して山陵を棄てる。宜しく共に之を罪とすべし。今當に汭に入り**佺期**を討除すべく，已に兵は江口に頓す。若し與にせ見(ら)れて貳（二心）無ければ，**楊廣**を収めて之を殺す可し。如(も)し其の爾(しか)らずんば，便ち當に兵を帥いて江に入る(江陵を攻める)べし。」

時に巴陵（湖南省武陵道岳陽県、現・岳陽市岳陽県）に穀の積む有り，**玄**は先ず兵を遣わして襲いて之を取らしむ。梁州刺史の**郭銓**は官に之くに當たり，路は夏口を經て，**玄**は詐り稱して、

「朝廷は**銓**を遣わして己の前鋒と為す」

と，乃ち授けるに江夏之衆を以てし，諸軍を督して並び進ま使めて，密かに兄の**偉**に報じて内應を為さ令む。**偉**は遑遽(慌てる)して為す所を知らず，自ら疏を繼いで**仲堪**に示す。**仲堪**は**偉**を執りて質と為し，（偉をして）**玄**に書を與え令め，辭は甚だ苦に至る。**玄**は曰く、

「**仲堪**は人と為り決は無く，常に成敗之計を懐き，兒子の為に慮りを作(な)し，我が兄は必ず憂い無き也。」

■<u>［桓玄は江陵に迫る、楊佺期誅殺、人のいい殷仲堪は自決］</u>**仲堪**は**殷遹**を遣わして水軍七千を帥いて西江口（湖北省荊南道藍利県、現・荊州市藍利市）に至り，**玄**は**郭銓**、**苻宏**（孝武帝太元十年に来奔して江州に拠る、将となる）をして之を撃た使め，**遹**等は敗走す。**玄**は巴陵に頓し，其の穀を食す。**仲堪**は**楊廣**及び弟の子の**道護**等を遣わして之を拒み，皆な**玄**の敗る所と為る。江陵は震駭す。城中の食乏しく，胡麻を以て軍士に廩（扶持）す。**玄**は勝ちに乗りて零口（湖北省荊南道江陵県、現・荊州市江陵県）に至り，江陵を去ること二十里，**仲堪**は急に**楊佺期**を召して以て自ら救わんとす。**佺期**は曰く、

「江陵は食無し，何を以て敵を待つや！來たりて就か見(れ)る可し，共に襄陽を守らん。」

仲堪の志は軍を全くし境いを保つに在り，州を棄てて逆えて走るを欲さず，乃ち之に紿(あざむ)きて曰く、

「比來(ちかごろ)収集し，已に儲け（蓄え）有り矣。」

佺期は之を信じ，歩騎八千を帥い，精甲は日を耀かし，江陵に至り，**仲堪**は唯だ飯を以て其の軍に餉す。**佺期**は大いに怒りて曰く、

「今茲(ここ)に敗れん矣！」

仲堪を見ず，其の兄の**廣**と共に**玄**を撃つ。**玄**は其の鋭を畏れて，退きて馬頭（湖北省荊南道公安県、現・荊州市公安県）に軍す。明くる日，**佺期**は兵を引いて急に**郭銓**を撃ち，幾(ほと)んど之を獲んとす。**玄**の兵至るに會し，**佺期**は大敗し，單騎にして襄陽に奔る。**仲堪**は出でて鄧城（湖北省襄陽道光化県、現・襄陽市老河口市光化街道）に奔る。**玄**は將軍の<u>**馮該**</u>を遣わして**佺期**及び**廣**を追い，皆な獲りて而して之を殺し，首を建康に傳える。**佺期**の弟の**思平**、從弟の**尚保**、**孜敬**は逃れて蠻中に入る。**仲堪**は**佺期**の死するを聞き，數百人を將いて將に長安に奔らんとし，冠軍（河南省汝陽道鄧県、現・南陽市鄧州市張村鎮冠軍村）城に至り，**該**は追いて之を獲り，還りて柞溪（湖北省荊南道江陵県、現・荊州市江陵県）に至り，逼りて自殺せ令め，並びて**殷道護**を殺す。**仲堪**は天師道を奉じ，禱りて鬼神に請い，財賄を吝せず，而して周急（急を救う）に嗇(やぶさか)なり。小惠を為すを好んで以て

人を悦ばし，病者は自ら為に脈を診て薬を分け，計を用いること倚伏煩密（ああでもない、こうでもないと思考する）し，(7-047p) 而して鑒略（鑒議謀略）に短なり，故に敗に至る。

■［ひとり羅企生は忠勤、桓玄に従わず］**仲堪**之走る也，文武は送る者無し，惟だ**羅企生**は之に従う。路は家門を経て，弟の**遵生**は曰く、

「此くの如き分離を作す，何の一たび手を執らざる可きか！」

企生は馬を旋らして手を授け，**遵生**は力有り，因りて之を牽き下して，曰く、

「家に老母有り，去りて將に何くに之かん？」

企生は涙を揮いて曰く、

「今日之事は，我は必ず之に死せん，汝等は奉養して，子の道を失わざれや。一門之中に，忠と孝有れば，亦た復た何を恨まんや！」

遵生は之を抱くに愈々急にして，**仲堪**は路に於いて之を待ち，**企生**が脱する理無きを見て，馬を策ちて而して去る。及ち**玄**は至り，荊州の人士は**玄**に詣らざる者無く，**企生**は獨り往かず，而して**仲堪**の家事を營理す。或は曰く、

「此くの如くせば，禍いは必らず至らん矣！」

企生は曰く、

「**殷侯**は我を國士を以て遇し，弟の制する所と為り，之に隨って共に丑（続は醜）逆を殄すを得ず，復た何の面目ありてか**桓**に就きて生を求めん乎！」

玄は之を聞き，怒り，然るに**企生**を待つこと素より厚く，先ず人を遣わして謂って曰く、

「若し我に謝れば，當に汝を釋さん。」

企生は曰く、

「吾は**殷**荊州の吏と為り，荊州は敗れ，救う能わず，尚ほ何を謝まるを為さん！」

玄は乃ち之を收め，復た人を遣わして**企生**に、

「何を言わんと欲するか。」

と問う。**企生**は曰く、

「**文帝**は**嵇康**を殺し（78 巻魏元帝景元三年にあり），**嵇紹**は晉の忠臣為り（85 巻恵帝永興元年にあり）。公に從って一弟を乞い以て老母を養わん！」

玄は乃ち**企生**を殺し而して其の弟を赦す。

【呂光没後の混乱】

後涼［後涼王呂光の遺言］涼王の**光**の疾は甚しく，太子の**紹**を立てて天王と為し，自ら**太上皇帝**と號し，太原公の**纂**を以て太尉と為し，常山公の**弘**を司徒と為し，**紹**に謂って曰く、

「今國家は多難なりて，三鄰（禿髪・乞伏・段業）は隙を伺う。吾沒する之後，**纂**をして六軍を統べ使め，**弘**をして朝政を管ぜしめ，汝は己を恭々しくして為す無く，重きを二兄に委ねれば，庶幾くは濟う可からん。若し內に相い猜忌せば，則ち蕭牆之變は，旦夕に至らん矣。」

又た**纂**、**弘**に謂って曰く、

「**永業**（呂紹の字）は才は撥亂に非ず，直に嫡を立てるは常有るを以て，猥りに元首に居る。今外に強寇有り，人心は未だ寧からず，汝ら兄弟は緝ぎ睦せば，則ち祚いは萬世に流れん。若し內に自ら相い圖れば，則ち禍は踵を旋さず矣。」

纂、**弘**は泣いて曰く、
「敢えてせず。」
又た**纂**の手を執りて之を戒めて曰く、
「汝は性は粗暴にして，深く吾が憂いと為す。善く**永業**を輔け，讒言を聴く勿かれ！」
是の日，**光**は卒す（年63）。**紹**は秘して喪を發せず，**纂**は閤（潜り戸）を排して入りて哭し，哀を盡くして而して出ず。**紹**は懼れ，位を以て之に譲り，曰く、
「兄は功高く年長ず，宜しく大統を承くべし。」
纂は曰く、
「**陛下**は國之塚（続は冢）嫡，臣は敢えて之を奸さんや？」
紹は固く譲り，**纂**は許さず。驃騎將軍の**呂超**は**紹**に謂って曰く、
「**纂**は將と為りて年を積み，威は内外に震いて，喪に臨みて安（続は哀）ぜず，歩みは高く視るに遠く，必ず異志有らん，宜しく早く之を除くべし。」(7-048p)
紹は曰く、
「**先帝**の言は猶ほ耳に在り，奈何して之を棄てんや！吾は弱年を以て大任を負荷す，方に二兄に頼りて以て家國を寧んじ，縦い其の我圖れば，我は死を視ること歸するが如し，終に些の意有るを忍ばざる也。卿は復た言う勿かれ！」
纂は**紹**に湛露堂にて見える。**超**は刀を執りて側に侍し，**纂**を目し之を收めんと請い，**紹**は許さず，**超**は，**光**の弟の**寶**之子也。
後涼［呂纂の挙兵］**弘**は密かに尚書の**姜紀**を遣わして**纂**に謂って曰く、
「**主上**は闇弱にして，未だ多難に堪えず。兄の威恩は素より著らかなり，宜しく社稷の計を為し，小さな節に徇う可からざる也。」
纂は是に於いて壮士數百を帥いて北城を逾え，廣夏門を攻め，**弘**は東苑之衆を帥いて洪範門（涼州城の中城門）を斧る。左衛將軍の**齊從**は融明觀を守り，逆えて之に問いて曰く、
「誰ぞ也？」
衆は曰く、
「太原公なり。」
從は曰く、
「國に大故有り，**主上**は新たに立ち，太原公は行きて道に由らず，夜禁城に入る，將に亂を為さん邪？」」
因りて劍を抽きて直ちに前んで**纂**を斫り，額に中たり，**纂**の左右は之を禽とす。**纂**は曰く、
「義士也，殺す勿かれ！」
紹は虎賁中郎將の**呂開**を遣わして禁兵を帥いて端門に於いて拒み戰い，**呂超**は卒二千を帥いて之に赴く。衆は素より**纂**を憚り，皆な戰わずして而して潰ゆ。**纂**は青角門（涼州城の東門）より入り，謙光殿に升る。**紹**は紫閣に登り自殺す。**呂超**は廣武に奔る。
後涼**纂**は**弘**の兵強きを憚かり，位を以て**弘**に譲る。**弘**は曰く、
「**弘**は以えらく**紹**の弟也，而るに大統を承ければ，衆心は順わず，是れ以て**先帝**の遺命に違えて而して之を廢せば，黄泉に慚負せり！今復た兄を逾えて而して立てば，豈に**弘**之本志ならん乎！」
纂は乃ち**弘**をして出でて衆に告げ使めて曰く、
「**先帝**は臨終し，詔を受けること此くの如し。」

群臣は皆な曰く、
「苟しくも社稷に主有れば，誰か敢えて違う者や！」
纂（字は永緒、呂光の庶長子）は遂に**天王**に即位す。大赦し，改元して咸寧とし，**光**に謚して**懿武皇帝**と曰い，廟號を**太祖**とす。**紹**に謚して**隱王**と曰う。**弘**を以て大都督、督中外諸軍事、大司馬、車騎大將軍、司隸校尉と為し、尚書事を錄せしめ，番禾郡公に改封す。
纂は**齊從**に謂って曰く、
「卿は前に我を斫る，一に何ぞ甚だしき也！」
從は泣いて曰く、
「**隱王**は，**先帝**の立てる所。**陛下**は天に應じ人に順うと雖も，而して微心未だ達せず，唯だ**陛下**の死せざるを恐れる，何ぞ甚だしきと謂う也！」
纂は其の忠を賞し，善く之を遇す。
纂の叔父の征東將軍の**方**は廣武に鎮し，**纂**は遣使して**方**に謂って曰く、
「**超**は實に忠臣にして，義勇は嘉とす可し，但だ國家の大體，權變之宜しきを識らず。**方**（続はまさにと約すが、ここは人名）は其の用を賴り，以て世難を濟う，此の意を以て之を諭す可し。」
超は上疏して陳謝し，**纂**は其の爵位を復す。

▲是の歲，燕主の**盛**は河間公の**熙**を以て都督中外諸軍事、尚書左僕射と為し，中領軍を領せしむ。
●**劉衛辰**の子の**文陳**は魏に降る。魏主の**珪**は妻わすに宗女を以てし，上將軍に拜し，賜わるに姓を**宿氏**とす。**(7-049p)**

安皇帝丙隆安四年（庚子，４００年）

▲春，正月，壬子（１日）朔，燕主の**盛**は大赦し，自ら號を貶して庶人天王と為す。
●▲［**盧溥は敗れて車裂きにされる**］魏の材官將軍の**和跋**は**盧溥**（前年燕につく）を遼西に襲う，戊午（７日），之に克ち，**溥**及び其の子の**煥**を禽とし，平城に送り，之を車裂きにす。燕主の**盛**は廣威將軍の**孟廣平**を遣わして**溥**を救わんとし，及ばす，魏の遼西の守宰を斬りて而して還る。
■乙亥（２４日），大赦す。
西秦西秦王の**乾歸**は苑川（乞伏は元々苑川にあり、乾帰は金城に移り、また戻る、甘粛省蘭山道金県、現・蘭州市榆中県）に遷都す。
南涼**禿髮利鹿孤**は大赦し，改元して建和とす。

【慕容盛は高句麗王安を攻める】

▲［**燕の高句麗王安討伐**］高句麗王の**安**は燕に事えて禮慢なり。二月，丙申（１５日），燕王の**盛**は自ら兵三萬を將いて之を襲い，驃騎大將軍の**熙**を以て前鋒と為し，新城、南蘇の二城を拔き，境七百餘里を開き，五千餘戶を徙し而して還る。**熙**の勇は諸將に冠たり，**盛**は曰く、
「叔父は雄果にして，**世祖**（慕容垂）之風有り，但だ弘略は如らざる耳！」

●［**魏の皇后は慕容氏が金人を鑄てなる**］初め，魏主の**珪**は**劉頭眷**之女を納れ，寵は後庭に冠たり，子嗣

を生む。中山に克つ（109 巻隆安元年にあり）に及び，燕主の**寶**之幼女を獲る。將に**皇后**に立てんとし，其の國の故事を用い，金人を鑄て以て之をトす，**劉氏**は鑄る所成らず，**慕容氏**は成り，三月，戊午（８日），**慕容氏**を立てて**皇后**と為す。（魏の故事に金属人物像を鋳るを皇后の条件とするは、拓跋氏の金属精錬の重要さを示す）

■［桓玄は八州及び揚豫八郡諸軍事となる］**桓玄**は既に荊、雍に克ち，表して荊、江二州を領せんを求める。詔して**玄**を以て都督荊、司、雍、秦、染、益、寧七州諸軍事、荊州刺史と為し，中護軍の**桓修**を以て江州刺史と為す。**玄**は上疏して固く江州を求め，是に於いて**玄**を進めて八州及び揚、豫八郡諸軍事を督し，復た江州刺史を領せしむ。**玄**は輒ち兄の**偉**を以て雍州刺史と為し，朝廷は違う能わず。又た從子の**振**を以て淮南太守と為す。

後秦［涼王の**纂**の弟の弘と遺族の処置］涼王の**纂**は大司馬の**弘**の功が高く地逼るを以て，之を忌む。**弘**も亦た自ら疑い，遂に東苑之兵を以て亂を作し，**纂**を攻める。**纂**は其の將の**焦辨**を遣わして之を擊ち，**弘**の衆は潰え，出でて走る。**纂**は兵を縱ちて大掠し，悉く東苑の婦女を以て軍を賞し，**弘**之妻子も亦た中に在り。**纂**は笑いて群臣に謂って曰く、

「今日之戰は何如や？」

侍中の**房晷**は對えて曰く、

「天は涼室に禍いし，憂患は仍りに臻る。**先帝**は始めて崩じ，**隱王**は廢黜せられる。山陵は甫めて訖り，大司馬は兵を稱げる。京師は流血し，昆弟は刃を接す。**弘**は自ら夷滅を取ると雖も，亦た陛下が棠（続は常）棣之恩（詩経の篇、兄弟の情を述べる）無きに由り，當に己を省み躬を責め以て百姓に謝すべし。乃ち更に兵を縱ちて大掠し，士女を囚辱し，釁は**弘**より起こるに，百姓は何の罪あるや！且つ**弘**の妻は，**陛下**之弟の婦，**弘**の女，**陛下**之侄也，奈何して無賴の小人をして辱しめて婢妾と為さ使むるや！天地神明，豈に此れを見るに忍びず！」(7-050p)

遂に歔欷流涕す。**纂**は容を改めて之を謝し，**弘**の妻子を召して東宮に寘し，厚く之を撫す。

後秦［呂弘の誅殺］**弘**は將に**禿髮利鹿孤**に奔らんとし，道に廣武を過ぎ，**呂方**に詣る。**方**は之を見，大いに哭きて曰く、

「天下は甚だ寬なり，汝は何為れぞ此に至るや！」

乃ち**弘**を執りて獄に送り，**纂**は力士の**康龍**を遣わして就きて之を拉殺す。

後涼**纂**は妃の**楊氏**を立てて后と為し，后の父の**桓**を尚書左僕射、涼都の尹（都を姑藏に置き、武威の太守を尹）と為す。

▲辛卯（４１日？），燕の襄平令の**段登**等は反を謀り，誅せらる。

後涼 南涼涼王の**纂**は將に武威王の**利鹿孤**を伐たんとし，中書令の**楊穎**は諫めて曰く：

「**利鹿孤**は上下命を用い，國未だ釁有らず，伐つ可からざる也。」

從わず。**利鹿孤**は其の弟の**傉檀**（続による、辱檁）をして之を拒ば使む，夏，四月，**傉檀**は涼の兵を三堆（浩亹河の南、甘粛省蘭山道導河県、現・甘粛省臨夏回族自治区臨夏市）に於いて敗り，斬首は二千餘級。

【敦煌の李暠の西涼自立】

西涼［敦煌の李暠、太守就任の軋轢］初め，隴西の**李暠**は文學を好み，令名有り。嘗て**郭**□（とん、麻の下に香）及び同母弟の敦煌の**宋繇**と同宿し，□（麻の下に香）は起ちて繇に謂って曰く、

「君は當に位は人臣を極める，**李君**は終に當に國家に有るべし。騧馬（牝馬）有りて白額の駒を生む。此れ

其の時也。」

孟敏が沙州刺史に為るに及びて，**暠**を以て效穀（県、甘肅省安肅道敦煌県、現・酒泉市敦煌市甜水井）令と為す。**宋繇**は北涼王の**業**に事え，中散常侍（中散大夫は常に左右に侍す）と為る。**孟敏**は卒し，敦煌の護軍の馮翊の**郭謙**、沙州治中の敦煌の**索仙**等は**暠**が溫毅にして惠政有るを以て，推して敦煌太守と為す。**暠**は初め之を難しとし，**宋繇**が張掖より告歸するに會して，**暠**に謂って曰く、

「**段王**は遠略無く，終に必ず成無し。兄の**郭**□之言を忘れる邪？白額の駒は今已に生まれたり矣。」

暠は乃ち之に従う，遣使して命を**業**に請う。**業**は因りて**暠**を以て敦煌太守と為す。右衛將軍の敦煌の**索嗣**は**業**に言って曰く、

「**李暠**は敦煌に處ら使む可からず。」

業は**嗣**を以て**暠**に代わりて敦煌太守と為し，五百騎を帥いて官に之か使む。**嗣**は未だ至らざること二十里，**暠**に移して己を迎えしむ。**暠**は驚き疑い，將に出でて之を迎える。效穀令の**張邈**及び**宋繇**は之を止めて曰く、

「**段王**は闇弱にして，正に是れ英豪為す有る之日なり。將軍は一國の成資に據りて，奈何ぞ手を拱いて人に授くや！**嗣**は自ら本郡を恃み，人情は己に附くと謂い，將軍の猝に能く之を拒むを意わず，一戰して擒とす可き也。」

暠は之に従う。先ず**繇**を遣わして**嗣**を見，啖（続は啗）わすに甘言を以てす。**繇**は還り，**暠**に謂って曰く、

「**嗣**は志は驕り兵は弱し，易く取れる也。」

暠は乃ち**邈**、**繇**と其の二子の**歆**、**讓**を遣わして逆えて之を擊ち，**嗣**は敗走し，張掖に還る。**暠**は素より**嗣**と善し，尤も之を恨み，**業**に表して**嗣**を誅するを請う。**沮渠男成**も亦た**嗣**を惡み，**業**に之を除かんと勸める。**業**は乃ち**嗣**を殺し，遣使して**暠**に謝り，**暠**を進めて都督涼興（段業は敦煌の涼興・烏澤・晉昌の宜禾を分けて涼興郡とす）已（続は以）西諸軍事、鎮西將軍とす。**(7-051p)**

吐谷渾［吐谷渾の念氏は國事專制］吐谷渾の**視羆**は卒す，世子の**樹洛干**は方に九歳，弟の**烏紇堤**は立つ。**樹洛干**之母の**念氏**を妻とし，**慕瑰**、**慕延**を生む。**烏紇堤**は懦弱にして荒淫，能く國を治めず。**念氏**は國事を專制し，膽（胆）智有り，國人は之に畏服す。

▲燕の前將軍の**段璣**は，太后の**段氏**之兄の子也，**段登**の辭の連及する所と為り，五月，壬子（３日），逃げて遼西に奔る。

■丙寅（１７日），衛將軍の東亭獻侯の**王珣**は卒す。

●己巳（２０日），魏主の**珪**は東に涿鹿に如き，西に馬邑に如き，壘（三水に壘の字）源を觀る。

▲戊寅（２９日），燕の**段璣**は復た還りて罪に歸す。燕王の**盛**は之を赦す，號を賜わりて思悔侯と曰い，公主に尚せ使め，入りて殿内に直す。

【孫恩の反乱の復活】

■［謝琰は孫恩の反乱を軽視して敗死］**謝琰**は資望（門地成資、人望）を以て會稽に鎮し，綏懷（安んじ懐かす）する能わず，又た武備を為さず。諸將は鹹な諫めて曰く、

「賊は近く海浦に在り，人の形便を伺うに，宜しく其の自新之路を開くべし。」

琰は從わず，曰く、

「**苻堅**之衆は百萬（謝琰は謝玄と淝水で勝ち、孫恩を侮る），尚ほ死を淮南に送る。**孫恩**は小賊にして，敗死（晉書謝安傳には奔衄に作る）して海に入る，何ぞ能く復た出でんや！若し其の果たして出ずれば，是れ天之を殺さ

んと欲する也。」
既に而して**恩**は浹口（浙江省會稽道鄞県、現・寧波市鄞州区）を寇し，餘姚（浙江省銭塘道餘杭県、現・杭州市余杭区）に入り，上虞（浙江省会稽道上虞県、現・紹興市上虞区）を破る。進みて邢浦（浙江省會稽道山陰県、現・紹興市柯橋区）に及び，**琰**は參軍の**劉宣之**を遣わして撃ちて之を破り，**恩**は退き走る。少日にして，復た邢浦を寇し，官軍は利を失い，**恩**は勝ちに乗りて徑ちに進む。己卯（３２日？），會稽に至り。**琰**は尚ほ未だ食わず，曰く、
「要ず當に先ず此の賊を滅して而る後に食らわん。」
因りて馬に跨がり出戰し，兵は敗れ，帳下都督の**張猛**の殺す所と為る。吳興太守の**庾桓**は郡民の復た**恩**に應じるを恐れ，男女數千人を殺す。**恩**は轉じて臨海を寇す。朝廷は大震し，冠軍將軍の**桓不才**、輔國將軍の**孫無終**、寧朔將軍の**高雅之**を遣わして之を拒む。

【涼州周辺の乱戦模様】

後秦 西秦秦の征西大將軍の隴西公の碩德は兵五千（晉書西秦載記には五萬に作る）を將いて西秦を伐ち，南安峽（甘肅省渭川道泰安県、現・天水市秦安県）より入る。西秦王の**乾歸**は諸將を帥いて之を拒み，隴西に軍す。
南涼**楊軌**（隆安二年に利鹿孤に降る）、**田玄明**は武威王の**利鹿孤**を殺さんと謀り，**利鹿孤**は之を殺す。
■六月，庚辰（１日）朔，日に之れ食有り。
■琅邪王師（晉の諸王に師・友・文學各一人を置く）の**何澄**を以て尚書左僕射と為す。**澄**は，**准**（続は準、何準は 100 巻穆帝升平元年に見える）之子也。
▲甲子（３５日？），燕は大赦す。
後涼 北涼 南涼［後涼は北涼張掖を攻め、傉檀は姑藏を攻める］涼王の**纂**は將に北涼を襲わんとし，**姜紀**は諫めて曰く、
「盛夏は農事は方に殷なり，且く宜しく兵を息すべし。今遠く嶺西（姑臧より西北に張掖に出るには大嶺有り、西郡は枢要の地）に出れば，**禿髪氏**は虚に乗りて京師を襲わん，將に之を若何せん！」(7-052p)
從わず。進みて張掖を圍み，西に建康を掠す。**禿髪傉檀**は之を聞き，萬騎を將いて姑臧を襲い，**纂**の弟の隴西公の**緯**は北城に憑り以て自ら固める。**傉檀**は朱明門（姑藏城の南門）の上に酒を置き，鐘鼓を鳴らし，將士に饗し，兵を青陽門（姑藏城の東門）に曜かし，八千餘戸を掠めて而して去る。**纂**は之を聞き，兵を引いて還る。
■秋，七月，壬子（４日），太皇太后の**李氏**は崩ず。
■丁卯（１９日），大赦す。
西秦［西秦王の乾歸は後秦主・姚興に敗れる］西秦王の**乾歸**は武衛將軍の慕兀等をして秦軍を屯守せ使む。（秦軍の）樵采の路は絕え，秦王の**興**は潛かに兵を引いて之を救う。**乾歸**は之を聞き，**慕兀**をして中軍二萬を帥いて柏楊（甘肅省渭川道清水県、現・天水市清水県）に屯せ使め，鎮軍將軍の**羅敦**をして外軍四萬を帥いて侯辰谷（甘肅省渭川道泰安県、現・天水市秦安県）に屯せしめ，**乾歸**は自ら輕騎數千を將して前みて秦の兵を候う。大風昏霧に會いて，中軍と相い失い，追騎の逼る所と為り，外軍に入る。旦に，秦と戰い，大敗し，走りて苑川に歸り，其の部衆三萬六千は皆な秦に降る。**興**は進みて枹罕に軍す。
西秦 南涼［乾歸は利鹿孤に降を乞う］**乾歸**は金城に奔り，諸豪帥に謂って曰く、
「吾は才あらず，叨りに名號を竊み，已に一紀（１２年）を逾え，今敗れて散るは此くの如し，以て敵を待つ無く，西に允吾（涼は允吾郡を置く、甘肅省蘭山道皐蘭県、現・蘭州市皐蘭県）を保たんと欲す。若し國を擧げて而して去れば，必ず免かるるを得ず。卿等は此に留まり，各々其の衆を以て秦に降るべし。以て宗族を全う

し，吾れに隨う勿かれ也。」
皆な曰く、
「死生は願わくは**陛下**に從はん。」
乾歸は曰く、
「吾は今將に人に寄食し，若し天が未だ我を亡ぼさざれば，庶幾(こいねが)わくは異日舊業を克復し，復た卿等と相い見えん。今相い隨いて而して死すは，無益也。」
乃ち大哭而して別れる。**乾歸**は獨り數百騎を引いて允吾に奔り，武威王の**利鹿孤**に降を乞い，**利鹿孤**は廣武公の**脩檀**を遣わして之を迎える。晉興（張軌は西平の界を分けて晉興郡を置く。允吾県の西四十里に小晉興城あり）を置き，待つに上賓之禮を以てす。鎮北將軍の**禿髪倶延**は**利鹿孤**に言って曰く、
「**乾歸**は本より吾之屬國にして，亂に因りて自ら尊ぶ，今勢い窮まりて命に歸す，其の誠款に非ず，若し逃れて**姚氏**に歸せば，必ず國患と為らん，如かず徙して乙弗（西海の鮮卑）之間に置けば，去るを得ざら使めん。」
利鹿孤は曰く、
「彼は窮して來たりて我に歸す，而して逆に其の心を疑えば，何を以て來者を勸めん！」
倶延は，**利鹿孤**之弟也。
西秦［乾歸は遂に秦に降る］秦兵は既に退き，南羌の**梁戈**等は密かに**乾歸**を招き，**乾歸**は將に之に應じんとす。其の臣の**屋引阿洛**は以て晉興太守の**陰暢**に告げ，**暢**は馳せて**利鹿孤**に白し，**利鹿孤**は其の弟の**吐雷**を遣わして騎三千を帥いて捫天嶺（甘粛省蘭山道皐蘭県、現・蘭州市皐蘭県）に屯せしむ。**乾歸**は**利鹿孤**の殺す所と為るを懼れ，其の**太子**の**熾盤**に謂って曰く、
「吾が父子は此に居れば，必ず**利鹿孤**の容るる所と為らざらん。今**姚氏**は方に強く，吾は將に之に歸さんとす，若し室を盡くして倶に行けば，必ず追騎の及ぶ所と為らん，吾は汝の兄弟及び汝の母を以て質と為せば，**(7-053p)** 彼は必ず疑わず，吾は長安に在り，彼は終に敢えて汝を害せざる也。」
乃ち**熾盤**等を西平に送る。八月，**乾歸**は南に枹罕に奔り，遂に秦に降る。
■丁亥（９日），尚書左僕射の**王雅**は卒す。
■九月，癸丑（６日），地震あり。
後秦涼の**呂方**は秦に降り，（主を無くした）廣武の民三千餘戸は武威王の**利鹿孤**に奔る。

■［高雅之は孫恩に破れ、劉牢之が討伐］冬，十一月，**高雅之**は**孫恩**と餘姚に戰い，**雅之**は敗れ，山陰に走り，死者は什に七、八。詔して**劉牢之**を以て會稽等五郡を都督し，衆を帥いて**恩**を擊ち，**恩**は走りて海に入る。**牢之**は東に上虞に屯し，**劉裕**をして句章（浙江省會稽道慈谿県、現・寧波市慈溪市）に戍せ使む。吳國内史の**袁崧**(えんすう)は滬瀆(ことく)（江蘇省滬海道嘉定県、現・上海市嘉定区）の壘を築いて以て**恩**に備える。**崧**は，**袁**（97 巻穆帝永和二年三年にあり）之孫也。
■［元顯は開府儀同三司都督十六州諸軍事］會稽の世子の**元顯**は徐州を領すを求め，詔して**元顯**を以て開府儀同三司、都督揚、豫、徐、兗、青、幽、冀、並、荊、江、司、雍、梁、益、交、廣十六州諸軍事と為し、徐州刺史を領せしめ，其の子の**彦璋**(げんしょう)**を**封じて東海王と為す。
西秦［乞伏乾歸は一旦後秦に帰順する］**乞伏乾歸**は長安に至り，秦王の**興**は以て都督河南（金城の河南）諸軍事、河州刺史、歸義侯と為す。
南涼之れ久しく，**乞伏熾盤**は逃げて**乾歸**に詣らんと欲し，武威王の**利鹿孤**は追いて之を獲る。**利鹿孤**は

將に**熾盤**を殺さんと欲し，廣武公の**脩檀**は曰く、
「子は而して父に歸するは，深く責めるに足る無し，宜しく之を宥し以て大度を求（続は示）めん。」
利鹿孤は之に従う。
後秦秦王の**興**は晉の將の**劉嵩**（洛陽が落ちて秦の没す）等二百餘人を遣わして來歸せしむ。
西涼［**西涼の敦煌の李暠は自立**］北涼の晉昌太守の**唐瑤**は叛し，檄を六郡（敦煌・酒泉・晉昌・涼興・建康・祁連）に移し，**李暠**を推して冠軍大將軍、沙州刺史、涼公と為し、敦煌太守を領せしむ。**暠**は其の境内に赦し，改元して庚子（この年の干支）とす。**瑤**を以て征東將軍と為し，**郭謙**を軍諮祭酒（参謀）と為し，**索仙**を左長史と為し，**張邈**を右長史と為し，**尹建興**を左司馬と為し，**張體順**を右司馬と為す。從事中郎の**宋繇**を遣わして東に涼興を伐たしめ，並びに玉門已西の諸城を擊ち，皆な之を下す。
西涼酒泉太守の**王德**は亦た北涼に叛し，自ら河州刺史と稱す。北涼王の**業**は**沮渠蒙遜**をして之を討た使む。**德**は城を焚き，部曲を將いて**唐瑤**に奔り，**蒙遜**は追いて沙頭（甘粛省安蕭道玉門県、現・酒泉市玉門市）に至り，大いに之を破り，其の妻子、部落を虜とし而して還る。
■［**會稽の世子の元顯の驕恣益々**］十二月，戊寅（２日），星（流れ星か）有り天津（天文志に、天津九星は河中に横たわり、一に天漢と曰い、一に天江と曰う、四瀆津梁を主どる）に孛（ほつ）す。會稽の世子の**元顯**は星變を以て錄尚書事を解き，復た尚書令を加える。吏部尚書の**車胤**は**元顯**の驕恣を以て，會稽王の**道子**に白し，之を禁抑せんを請う。**元顯**は聞きて而して未だ察せず，以て**道子**に問いて曰く、
「**車武子**（字）は人を屏（しりぞ）けて言うに何事に及ぶや？」(7-054p)
道子は答えず。固く之を問い，**道子**は怒りて曰く、
「爾（なんじ）は我を幽して，我をして朝士と語ら令めざらんと欲する耶！」
元顯は出でて，其の徒に謂って曰く、
「**車胤**は我が父子を間す。」
密かに人を遣わして之を責める。**胤**は懼れ，自殺す。
▲壬辰（１６日），燕主の**盛**は燕台を立て，諸部雜夷（二趙以来、皆単于臺を立てて雜夷を統べるにならう）を統べしむ。
●［**魏主は自ら占い、仙薬に凝り、已まず**］魏の太史は屢々天文の乖亂するを奏す。魏主の**珪**は自ら占いの書を覽じ，多くは王を改め政を易えるを雲う，乃ち下詔して群下を風勵するに，以て、
「**帝王**の繼統は，皆な天命有り，妄干す可からず。」
とす。又た數々官名を變易し，以て災異を厭塞せんと欲す。儀曹郎の**董謐**（とうひつ）は《服餌仙經》を獻じ，**珪**は仙人博士を置き，仙坊を立て，百藥を煮て煉じ，（平城の）西山を封じ以て薪蒸（たきぎ）を供す。藥は成り，死罪の者をして試しに之を服さ令め，多くは死し，驗あらず。而るに**珪**は猶ほ之を信じ，訪ね求めて已まず。
●［**魏主は燕を教訓に、法制支配をもくろむ**］**珪**は常に燕主の**垂**は諸子を勢要に分據し，權柄をして下に移ら使め，遂に敗亡に至るを以て，深く之を非ずとす。博士の**公孫表**は旨を希（こいねが）い，《韓非》の書を上（たてまつ）り，**珪**に法制を以て下を御するを勸める。左將軍の**李栗**は性は簡慢，常に**珪**に對して舒放にして肅（つつし）まず，咳唾すること情に任す。**珪**は其の宿過を積み，遂に之を誅し，群下は震慄す。
▲丁酉（２１日），燕王の**盛**は獻莊后の**丁氏**を尊びて**皇太后**と為し，遼西公の**定**を立てて**皇太子**と為す。大赦す。
南燕［**南燕の慕容德も自立する**］是の歲，南燕王の**德**（字は玄明、慕容皝の少子）は廣固に於いて**皇帝**に即位し，大赦し，改元して建平とす。更に名を**備德**とし，吏民をして避け易（やす）から使めんと欲す。燕主の**韋**（口偏に韋）

に追諡して**幽皇帝**と曰う。北地王の**鐘**を以て司徒と為し，**慕輿拔**を司空と為し，**封孚**を左僕射と為し，**慕輿護**を右僕射と為す。妃の**段氏**を立てて皇后と為す。

令和 2 年 7 月 20 日　　完訳開始　　11097 文字
令和 2 年 7 月 24 日　　完訳完了　　21387 文字
令和 2 年 11 月 11 日　　微修正　　21646 文字　年表現代地名
令和 3 年 12 月 25 日　　書下し完成　22642 文字